



## マダニにご用心!

— ライム病にならないために —

季候がよくなり、野外へ出かける機会が増えると、カ、ブヨ、ダニなどの攻撃にさらされることとなります。通常は刺された部分がかゆくなる程度ですむのですが、時として怖い病原菌を移されることがあります。「ライム病」もその一つで、マダニに刺されることにより感染するものです。「ライム病」という名称は、アメリカ北東部のコネチカット州ライム地区で多発したことに由来しています。

### 「ライム病」とは

「ライム病」は、細菌の一種であるボレリアを病原体とする感染症です。ノネズミや野鳥が保菌動物となっており、マダニが保菌動物から人間へと媒介します(図1)。欧米では年間数万人が感染して社会的な問題となっています。国内では、1986年に初めての患者が報告されて以来、年間5～15例程度が北海道や本州中北部から報告されていますが、実際の事例はもっと多いと考えられています。患者は、マダニの活動期である5月から8月にかけて多く発生します。



図1 アオジのクチバシの付け根に寄生しているダニ(種類不明)

### 「ライム病」の症状

マダニに刺されて数日から数週後に患部が赤く腫れ、疲労感、不快感、発熱、咳、筋肉痛、関節痛などのインフルエンザや髄膜炎に似た様々な症状を伴うことがあります。そして、数週から数ヶ月後には神経や循環器系の疾患へと進展し、顔面麻痺が生じることもあります。さらに、数ヶ月から数年後には、慢性的な関節炎や皮膚炎などがみられます。



## 「ライム病」の媒介者

日本で「ライム病」を媒介するのは、シュルツェマダニ（図2）という種類で、北海道では平地にも生息していますが、本州では低山から山地にかけての地域がおもな生息地となっています。東北支所管内でも、秋季に行っている鳥類標識調査の際に捕獲したカシラダカとアオシに寄生していたシュルツェマダニから、「ライム病」のボレリアが元旭川医科大学の宮本先生たちにより検出されています。シュルツェマダニによく似た種類で、東北地方の平地にも生息するものにヤマトマダニ（図3）があります。このマダニは、「ライム病」を媒介することはありませんが、「ダニ脳炎」や「野兎病」を媒介しますので、同じように注意が必要です。

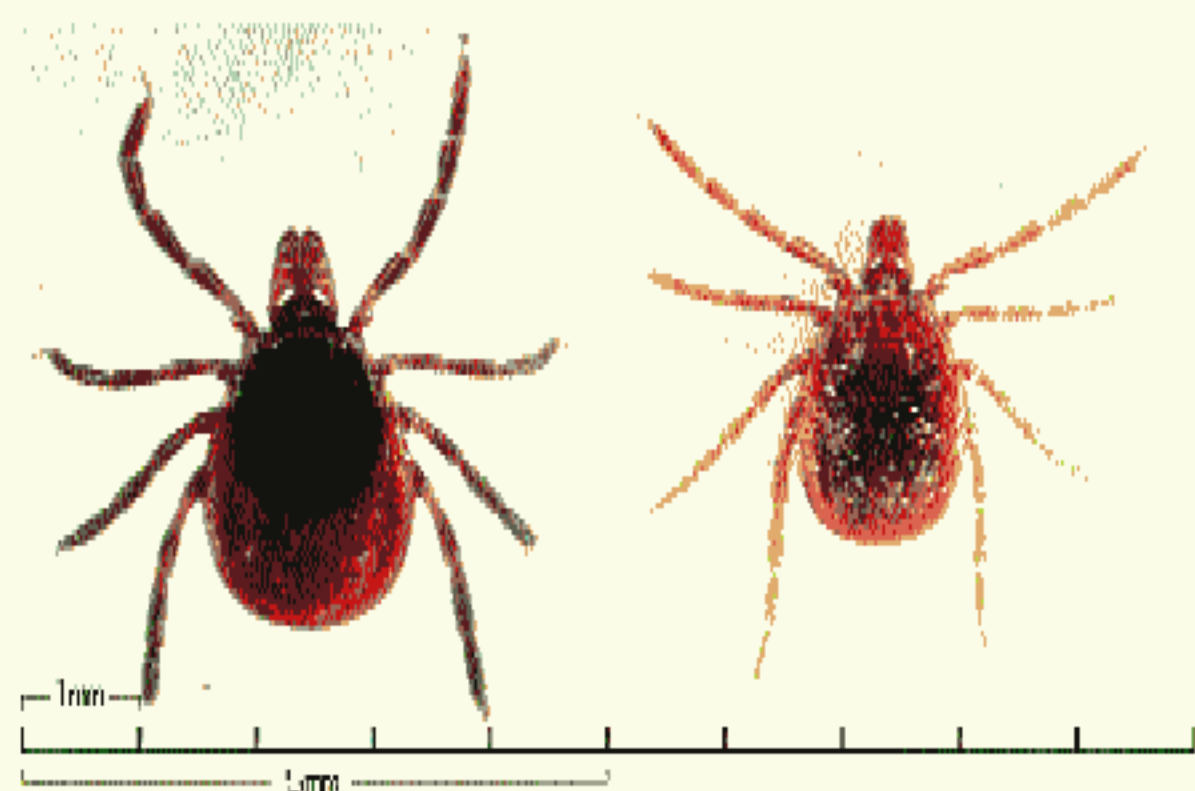


図2 シュルツェマダニの雌 図3 ヤマトマダニの雌

吸血するのは雌で、飽血すると体長が1cmにもなります。シュルツェマダニはヤマトマダニに比べ脚が黒いのが特徴です。（写真は、元旭川医科大学の宮本健司先生ご提供）

## マダニに寄生されたら（指でつまんで取らないで！）

マダニに刺されても痛みやかゆみを感じないため気づかないことが多く、しかも皮膚からすぐ離れるのではなく数日から1週間ほど吸血し続けます。誰でも、身体にマダニが寄生していると気持ちが悪くて、すぐ指でつまんで取りたくなるでしょうが、マダニの体をつまむとマダニの体液とともに細菌が人体に注入されることになるのでとても危険です。そのため、できるだけ皮膚科の病院で取ってもらうのがよいでしょう。もし、自分で取る場合でも、先の細いピンセットやとげ抜きで、皮膚に食い込んでいるマダニの口の部分をつまんで引き抜くようにしましょう。

## 早期発見、早期治療がカギ

「ライム病」は、早期に治療することで治すことができます。マダニに刺されて少しでも「おかしい」と感じたら受診するようにしましょう。時間が経過し、慢性化すると治療が難しくなります。シュルツェマダニのうち、ボレリアを保有しているものは10%程度です。また、刺されてから48時間以上経過しないとボレリアが人体に伝播することはないようなので、慌てずに対処することが大切です。

## 予防対策

「ライム病」を予防するためには、不用意にマダニが生息するような草むらや藪に分け入らないのが一番です。森林内での作業や調査を行う場合には、長袖、長ズボンを着用し肌の露出を少なくします。服装は、マダニが付着したときに気づきやすいよう明るい色のものとします。帰宅後は、マダニが寄生していないか身体をチェックしましょう。

多くのご教示とマダニの写真をご提供くださいました元旭川医科大学の宮本健司先生に厚く御礼申し上げます。

また、以下のホームページを参考にしました。「ライム病」について、さらに詳しく知りたい方は、

- ・細菌学会 (<http://www.soc.nii.ac.jp/jsb/>) トピックスからライム病
- ・国立感染症研究所 (<http://idsc.nih.go.jp/>) 感染症情報センター「感染症の話」
- ・北海道池田町立病院 (<http://www4.ocn.ne.jp/~winehp/>) 「マダニの注意」をご覧ください。

## 森林総合研究所東北支所

〒020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷92-25  
TEL 019-841-2150 FAX 019-841-6747  
ホームページ <http://www.ffpri-thk.affrc.go.jp/>

●生物多様性研究グループ 鈴木祥悟  
中村充博